

発熱外来で患者を診察する「いとう王子神谷内科クリニック」の伊藤博道院長=17日、東京都北区で(伊藤院長提供)



「第8波入り口」

東京都の新型コロナウイルスのモニタリング会議で十七日、専門家が「第八波の入り口に差しかかっている」と分析したのを裏付けよう。都内の発熱外来では患者の急増に追われている。検査した人の七割以上が陽性となる日も出ている。医師は「既に流行の第8波に入った」と指摘。季節性インフルエンザの感染者も増加傾向で「同時流行の可能性も高まっている」と警戒を強め、ワクチン接種など対策を呼びかけている。

(榎原智康) 1面参照

インフルも増加傾向 医療逼迫警戒

新型コロナ

伊藤院長によると、クリニックでのコロナ検査の陽性率は十月中旬が最も低く二割程度だった。しかし、その後上昇に転じ、十一月十四日は九人中七人が陽性で七割を超えた。患者は十～五十代がほとんどで、三十代が最も多い。これまでの流行と同様、比較的若い世代から感染拡大が始まり、今後高齢者に広がっていく恐れがあるという。

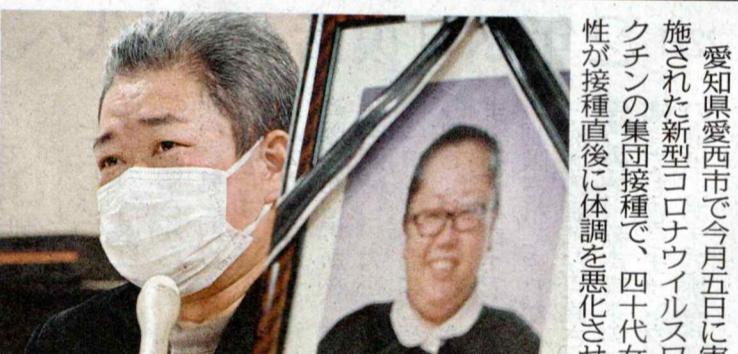
一方、インフルは九月以来二人の患者を診察した。一年と昨年のシーズンは一人もいなかった。患者一人のうち、三十代の男性患者はインフルだけでなく、コロナにも感染している「同時感染」のケースだった。抗インフル薬

「第八波の入り口」という段階は過ぎて「坂道」を上り始めている。コロナの発熱外来を設置する「いとう王子神谷内科クリニック」(東京都北区)の伊藤博道院長は現状をこうみる。

伊藤院長によると、クリニックでのコロナ検査の陽性率は十月中旬が最も低く二割程度だった。しかし、その後上昇に転じ、十一月十四日は九人中七人が陽性で七割を超えた。患者は十～五十代がほとんどのうで、三十代が最も多い。

これまでの流行と同様、比較的若い世代から感染拡大が始ま

患者急増「既に流行突入」



愛知の40代女性 接種後急死

県医師会「会場体制に問題」

愛知県愛西市で今月五日に実施された新型コロナウイルスワクチンの集団接種で、四十年代女性が接種直後に体調を悪化させ、死亡した問題で、当時の現場対応を審議していた県医師会は十七日、アナフィラキシー(重いアレルギー反応)を強く疑つて治療すべき事案であり、「現場で早期に(治療に使う)アドレナリンの筋肉注射をすべきだ」とする検証結果を発表。

「接種会場の体制に問題があった」と指摘した。亡くなったのは飯岡綾乃さん(四〇)。愛西市や県医師会による五日午後二時十八分、オミクロン株ア型「BA・5」対応ワクチンを接種。接種五分後に容体が急変し、搬送先の病院で死亡した。飯岡さんは高血圧や糖尿病の基礎疾患があった。

県医師会は、アナフィラキシ

ワクチン接種など対策を

都内では八王子市の小学校で児童三十三人がインフルエンザと診断されて十五日から学年一度に亘り、厚生労働省によると、全国約五千の定点医療機関から今月六日まで学級閉鎖となつた。厚生労働省によると、一部の地域で増加傾向がみられる」と分析している。

厚労省に助言する専門家組

織は「一部の地域で増加傾向

がみられる」と分析している。

前年同期(二二十三人)の十倍

と診断されて十五日から学年

度だった。しかし、その後上昇に転じ、十一月十四日は九人中七人が陽性で七割を超えた。患者は十～五十代がほとんどのうで、三十代が最も多い。

これまでの流行と同様、比較的若い世代から感染拡大が始ま

った」と指摘した。

一方、「医師の指示なく看護

師が打つのは難しかった」とも

指摘。看護師が注射することを

想定し、アドレナリンを適切に

配置して使い方を周知する必要

があるとした。その上で「基礎

疾患がある人は大学病院など設

備の整った施設での接種を考

るべきだ」と呼びかけた。

飯岡さんの夫英治さん(四〇)は

十七日、愛西市内で記者会見

し、県医師会の検証結果について「原因も責任の所在も、全て

があいまいだ」と批判した。

日	月	火	水	木	金	土
10月30日	31日	11月1日	2日	3日	4日	5日
3687	2019	6520	6346	6686	3090	7967
+882	+284	+1818	+1999	+2745	-430	+3846
6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日
6264	3489	8665	9012	7969	7899	8021
+2577	+1470	+2145	+2666	+1283	+4809	+54
13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日
6922	4025	11196	10114	9755	-	-
+658	+536	+2531	+1102	+1786		

(下段は一週間前からの増減)